

# 産業応用工学会論文査読規定

平成 24 年 12 月 3 日施行

## 1 査読の流れ

### 1.1 論文の受領

論文が投稿されると、編集委員会の論文受領担当がその論文が投稿要件を満たしているかを確認し、要件を満たしていると判断された場合、査読に移行する。

### 1.2 査読

編集委員長は編集委員の中から、投稿論文の専門性を考慮し主査を 1 名任命し、主査は査読者を任命する。査読者の数は、レターの場合 1 名、論文の場合 2 名とする。なお、主査が査読者となることを妨げない。

### 1.3 査読者による評価

査読者は、依頼後 4 週間以内に投稿論文に対して「2 査読基準」に従って A 判定（掲載）、B 判定（条件付掲載）、C 判定（照会後再投稿）、D 判定（掲載しない）のいずれかの判定を行う。判定と共に査読者コメントを作成し、主査に報告する。査読者コメントでは、改善すべき点、その理由、どのように改善すべきか、その他アドバイス等、できるだけ具体的に述べる。

### 1.4 査読代表者による掲載の判定

主査は、査読者のコメントをとりまとめて、これに基づいて投稿論文の評価を決定する。

- A 判定の場合

編集委員会で論文の採択を行い、判定結果、査読者のコメントおよび掲載時期を著者に通知する。書式の修正がある場合はその内容も通知する。

- B 判定および C 判定の場合

判定結果と査読者のコメントを添えて著者に照会を行う。

- D 判定の場合

査読者のコメントを添えて著者に判定結果を報告する。

## 2 査読基準

論文査読において、以下のような観点で審査を行う。

- 産業界への応用の可能性があるか。
- 新規性，有用性，独創性のいずれかが認められるか。
- 内容に明確な誤りがなく，信頼性，再現性があるか。
- 他の公開出版物に投稿，発表されていないか。  
    本学会が主催・共催の各種大会での発表を除く
- 根拠を示す十分な文献が参照されているか。
- 内容に飛躍がなく，明確な証拠が示されているか。
- 実験等に用いられている数値は適切か。
- 図表，文字，記号は解読可能な大きさか。